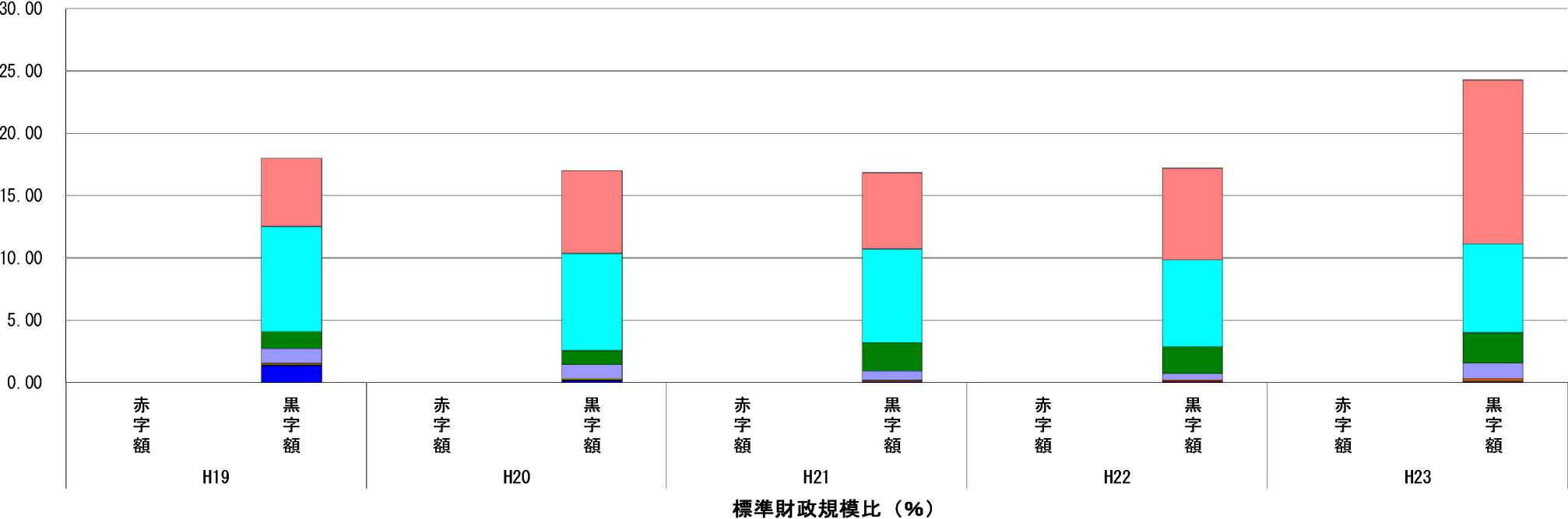


(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成23年度

宮城県大郷町

標準財政規模比（％）



年度		H19	H20	H21	H22	H23
会計	一般会計	5.49	6.62	6.13	7.37	13.15
	水道事業会計	8.45	7.80	7.50	7.00	7.14
	国民健康保険特別会計	1.38	1.12	2.27	2.13	2.41
	介護保険特別会計	1.17	1.12	0.75	0.56	1.23
	下水道事業特別会計	0.05	0.02	0.05	0.06	0.19
	戸別合併処理浄化槽特別会計	0.08	0.07	0.07	0.02	0.06
	農業集落排水事業特別会計	0.06	0.06	0.04	0.06	0.06
	後期高齢者医療特別会計	-	0.02	0.02	0.03	0.03
	その他会計（赤字）	-	-	-	-	-
	その他会計（黒字）	1.35	0.16	0.02	0.00	-

分析欄

連結実質赤字比率については、これまで一般会計・公営企業会計及び各種特別会計において赤字額を計上したことはない。平成23年度においては東日本大震災等に係る地方交付税等の歳入が見込みを大きく上回ったため、一般会計比率で大きな伸びを見せているが、ここ数年の標準財政規模比は全体で16～18%台で推移しており、厳しい財政事情が伺える。

特に各種特別会計においては、その各比率が3%以下で、戸別合併浄化槽・農業集落排水事業・後期高齢者医療の各会計においては0.1%以下となっており、一般会計からの繰り入れによってかうじて健全化を保っている状況で、最終的には一般会計の財政を圧迫することになっている。

また、一般会計においても自主財源の確保に苦慮しながら、各基金の取り崩しを考慮した予算編成にならざるを得ない。

今後は、一般会計においては新たな自主財源確保に向けた企業誘致等に全力を挙げるとともに、町税の徴収強化によって歳入確保に努めることが課題であり、保健関係特別会計においては、今後予想される給付費の増加をいかに抑制するかが喫緊の課題といえる。

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出しえない団体については、グラフを表記しない。